

災害が起こりやすい時期です

自分の地区の避難所を知っていますか

毎年6月の梅雨時期から10月にかけては、台風や集中豪雨などが発生しやすい時期です。それに伴い、低い土地での浸水や河川の増水、土砂災害が起こりやすくなります。日頃からの備えを再点検し、防災行動に役立てましょう。

【避難所の確認】

災害発生の際がある場合、指定の避難所を開設し、行政告知端末などで避難情報と併せてお知らせします。

指定避難所は「やすぎ市民防災マップ」や市ホームページ



▲やすぎ市民防災マップ。自宅近くの危険箇所を確認できます。

ジで確認できます。

災害の種類によって使用できる避難所は異なります。自宅周辺の危険箇所の確認と避難先となる避難所を確認しておきましょう。

浸水等により避難が難しい場合は、自宅の2階以上に避難するなど安全を確保してください。

各交流センターを自主避難所として開設した場合、避難時の安全確保のため、20時頃までの入館をお願いします。

【避難所での新型コロナウイルス感染症への対策】

- 避難所での過密を避けるため、親戚や友人宅への避難をご検討ください。
- 避難する際は、マスクを着用するなど、各自で感染予防対策をお願いします。
- 対象区域とは別の避難所を開設し、分散して避難いただく場合があります。

問い合わせ先
防災課 ☎23・3072

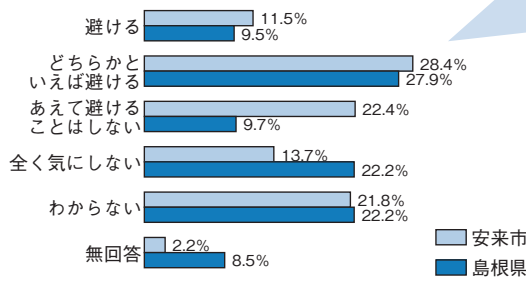
シリーズ 人権を考える ⑮

人権尊重社会の実現をめざして 正しく理解し、気づき、考え、行動を！ ～同和問題（部落差別）の現状～

皆さんは「同和問題は、昔のこと」「グローバル化、多様化の進んだ現代に、まだ部落差別があるのか」と思っていないでしょうか。事実として、いまだに結婚の際に身元調査をする人やインターネットに差別的書き込みをする人、住宅売買に関わる土地差別をする人がいます。

自分の住んでいる土地について、他の人から偏見を持たれ、避けられたとしたら、あなたはどんな気持ちになりますか？

家を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望に合っても、同和地区にあるとわかったら、どうしますか



安来市人権に関する市民意識調査より (H29)



▲小・中・高等学校では、差別の歴史や基本的人権について学んでいます。

左上のグラフは、同和問題に関する「安来市市民意識調査」の結果です。これを見ると、住宅購入の際、「同和地区を避ける」「どちらかといえば避ける」を合わせる割合に上っています。同和問題は、決して昔のことや遠い土地のことではありません。部落差別は、目に見えない心理的差別と言われます。人の心がつくりだす部落差別。解決もまた私たちの心の中にあります。

問い合わせ
人権施策推進課 ☎23・3095

